

『一級建築士試験 構造設計のツボ』(第1版第1刷)訂正とお詫び

本書第1版第1刷に以下の誤りがございました(については第1版第1~2刷)。読者の皆様にお詫び申し上げますとともに、以下に訂正させていただきます。なお本書第1版第2刷以降は全て訂正を反映しております。(学芸出版社編集部)

10 頁

公式 3 上図「一端固定、他端ピンのラーメンの場合」

左柱が固定になっていない(誤) 左柱は固定(正)

第1版第1刷、第2刷ともに誤っておりました。第1版第3刷で訂正しております。

23 頁

下から1行目 三角錐 三角柱

71 頁

式(5・8) 建築物の高さ H を分子に、建築物の幅 D を分母に訂正

74 頁

表 5・4 左の枠内の Fs を Rs に訂正

表 5・5 左の枠内の Fe を Re に訂正

77 頁

表 5・11 柱・梁 耐力壁 に訂正

107 頁

図 8・2 右図 側端部分 A 側端部分 C、側端部分 C 側端部分 D に訂正

109 頁

・下から15行目

左側部分の必要壁量  $(2.5\text{m} \times \underline{6\text{m}}) \times 33\text{cm/m}^2 = \underline{495\text{cm}} = \underline{4.95\text{m}}$

左側部分の必要壁量  $(2.5\text{m} \times \underline{5.5\text{m}}) \times 33\text{cm/m}^2 = \underline{453.75\text{cm}} = \underline{4.54\text{m}}$

・下から13行目

左側部分の充足率  $8.25 \div \underline{4.95} = \underline{1.66}$       左側部分の充足率  $8.25 \div \underline{4.54} = \underline{1.82}$

110 頁

・上から4行目

左側部分の必要壁量 (1.5m × 6m) × 21cm/m<sup>2</sup> = 189cm = 1.89m

左側部分の必要壁量 (1.5m × 5.5m) × 21cm/m<sup>2</sup> = 173.25cm = 1.73m

・上から 6 行目

左側部分の充足率  $3.75 \div \underline{1.89} = \underline{1.98}$

左側部分の充足率  $3.75 \div \underline{1.73} = \underline{2.17}$

・上から 14 行目

下側端部分の必要壁量 (1.5m × 6m) × 21cm/m<sup>2</sup> = 189cm = 1.89m

下側端部分の必要壁量 (1.5m × 6m - 0.5 × 3) × 21cm/m<sup>2</sup> = 157.5cm = 1.58m

・上から 16 行目

下側端分の充足率  $4.50 \div \underline{1.89} = \underline{2.38}$

下側端分の充足率  $4.50 \div \underline{1.58} = \underline{2.85}$

131 頁

図 9・8 aw/b・w      aw/b・x

135 頁

出題例 42 図中の図形の寸法 ly と lx が逆

136 頁

下から 11 行目 2 1 に訂正

150 頁

図 10・2 8 行目 Tc To に訂正

153 頁

表 10・5 「柱及び梁の種別」欄の「柱または圧縮材」と「梁材」に描かれた H 形鋼について、長さを表す b がフランジの全幅になっていますが、正しくは半幅です。

また、同表 FA 欄の「柱または圧縮材」の「ウェブ」で「b/t w」とあるのは「d/t w」の誤りです。

155 頁

図 10・4 「移動自由」欄一つ下左端の「両端ピン」 「両端固定」

160 頁

・上から 12 行目の右端

5.0 × 10<sup>6</sup>N · mm   50.0 × 10<sup>6</sup>N · mm